

企画展示

館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

エントランスギャラリー 1F

「キッズウィーク」への取り組みが広がっています！(2019年4月～6月)

地域ごとに学校の夏休みなどの長期休業日を分散化することで、大人と子供が一緒にまとまった休日を過ごす機会を創出する「キッズウィーク関連調査事業」(経済産業省)の取り組みをご紹介します。



ガーデンラウンジ 1F

(継続展示中)

「旅の図書館 オススメの一冊」

「一度は読みたい観光研究書 & 実務書100冊」

「旅心を誘う、旅の本のレジェンド30選」(継続展示中)



古書ギャラリー 1F

日本の観光に寄与した外国人(2019年4月～6月)

明治から昭和戦前期の日本では、観光にかかせない鉄道、建築、温泉、登山、スキー、旅行案内書などが大きな発展をとげました。各分野で活躍した外国人の功績をご紹介します。



展示ウォール B1F

当財団専門委員が選んだ「わたしの一冊」

旅の図書館 40年のあゆみ

「特産品を活用したインバウンドの経済効果向上」(2019年4月～6月)

機関誌「観光文化241号」(4/10発行)は、特産品がインバウンドによる経済効果の向上に果たす多様な役割について、先進事例を基に考察しています。特集テーマに関連した当館蔵書図書を紹介しています。



Information

2018年度旅の図書館開設40周年記念事業のご報告

当館は昨年10月の開設40周年を記念して、古書の充実と魅力発信を中心に、以下のような周年事業に取り組みました。

①「旅の図書館40年のあゆみ」のギャラリー展示(2018年10～12月)

開設から現在までの当館40年のあゆみを、トピックや写真を交えながらパネル紹介しました。A4版の配布用も館内に設置しています。

②機関誌「観光文化239号」の発行(2018年10月)

「古書から学ぶ」をテーマとして、観光関連の古書の魅力やその研究価値への気づきにつながる特集を行うとともに、周年史に代えて当館40年の歩みを紹介しました。

③特別企画「第15回たびとしょCafe」の開催(2018年10月16日)

神戸芸術工科大学教授・西村幸夫先生をゲストスピーカーにお招きし、「古書から学ぶ未来へのヒント—日本の観光の課題とこれから—」と題してご講演いただきました。

※詳細は当財団HP及び「観光文化240号」をご覧ください。

④古書のデジタルアーカイブ化及び保存箱の作成(2017～2018年度)

2017年度より着手し、2018年3月までに所蔵古書約1,500冊のデジタルアーカイブ化を進めるとともに、長期的な保存を図るため中性紙保存箱・封筒の作成を行いました。アーカイブ化した古書は今後デジタルデータでご覧いただけるよう引き続き取り組んでいく予定です。

⑤古書及び観光関連社史の収集

戦前の観光事業や観光政策、旅行案内書など当館未所蔵の貴重資料及び観光関連社史約400冊を重点収集しました。



作成した中性紙保存箱・封筒

⑥古書ギャラリー特別展示(2018年7月～2019年3月)

出版物からみるジャパン・ツーリスト・ビューローの歴史、木下淑夫と木下文庫、国際観光局などをテーマに、3回にわたる特別展示を開催しました。

⑦Historical Archive on Tourism(ドイツ)と Thomas Cook Archives(イギリス)への訪問(2019年3月)(TOPICS参照)

「観光でつながる 図書館&博物館」コーナーを設置しました

観光は、様々な分野と関わり合うことから、当館以外にも特徴的な資料を所蔵する専門図書館や博物館は少なくありません。このたび、これまでに館同士の交流を通してつながった図書館(図書室・資料室を含む)の紹介コーナーを設置しました。パンフレットなどご自由にお持ち帰りください。



たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 7

2019年4月号



「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

Check

Historical Archive on TourismとThomas Cook Archivesを訪問しました。

当館のような観光・旅行を専門とする図書館・資料室が海外にも存在することをご存知ですか？2018年に開設40周年を迎えた当館は、新たなネットワークを形成するため、ドイツ・ベルリンにあるHistorical Archive on Tourism (HAT) と、イギリス・ピーターバラにあるThomas Cook Archivesを訪問しました。

HATはベルリン工科大学図書館内にある観光専門のアーカイブスで、ガイドブックや世界各地の旅行パンフレット、紀行文、学術誌、統計資料、写真、ポスターなど70000点以上の資料を所蔵しています。世界中のガイドブックのお手本でもあったBaedekerのガイドブックに加え、Griebenのガイドブック、主に富裕層が利用したMeyersのガイドブックなど500冊以上が並ぶ様子は壮観でした。

Thomas Cook Archivesはトーマス・クック本社内にあるアーカイブスです。同社が発行したExcursionist(1851-1902)やThe Traveller's Gazette Magazine(1902-39)をはじめ、同社の関連施

設やスタッフの記録、旅行記、ガイドブック、パンフレット、時刻表など、同社誕生から現在に至るまでの資料を所蔵しています。

日本に関係する資料として、トーマス・クックの息子であるジョン・メイソン・クックが世界一周で日本に立ち寄った際の旅行免状や1920年に同社とジャパン・ツーリスト・ビューローが相互代理店契約を結んだ際の記録など、貴重な資料の数々を見せていただきました。

両アーカイブスとは、所蔵資料の概要をはじめ、運営面での課題、ヨーロッパにおける観光関連のアーカイブス施設などについて有益な情報交換をおこなうことができました。いずれも限られた体制や予算の中で、明確なコンセプトに基づき貴重な資料を所蔵・管理・公開していること、そして自社や自国のアイデンティティとして歴史を大切に、その価値を発信している姿勢に感銘を受けました。両アーカイブス共に事前予約制で研究者を中心に利用を受け入れています。ご関心のある方は以下のサイトをご覧ください。



■ Historical Archive on Tourism
<http://hist-soz.de/hat/archiv.html>

※HATについてはスポンサーからの資金が得られなくなった関係で来年以降の運営については未定とのこと。

■ Thomas Cook Archives
<https://www.thomascook.com/thomas-cook-archives/>

第16回たびとしょCafeを開催しました (3/15)

テーマ 進化するまちあるき ～「まいまい京都」の舞台裏から学ぶ～

ゲストスピーカー 以倉 敬之 氏 (まいまい京都主宰)

年間700コースを開催し、98%の稼働率を誇る「まいまい京都」はリピーターも多く、個性豊かなガイドの存在も魅力の一つですが、全て民間が運営をおこなう珍しい事例としても注目されてきました。

まちあるきを通して、地域の魅力や楽しみ方を最大限に感じていただくための工夫や仕組みはとても興味深く、ガイドさんの探し方からツアーの作り方、運営体制、収支、課題や留意点などに至るまで、まいまい京都の裏側を惜しみなくお話いただきました。

実際にまちあるきのガイドをおこなっている方なども参加して下さったため、実務的な質問が飛び交い、活気のある意見交換となりました。

全国各地でまちあるきが盛んに展開されていますが、今後のまちあるきのあり方を考えていく上でも様々な気づきを得られた時間となりました。

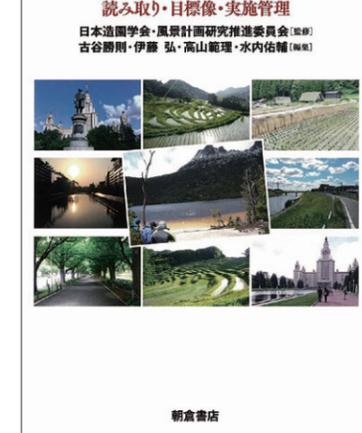


初めて1Fライブラリープラザを会場に開催しました

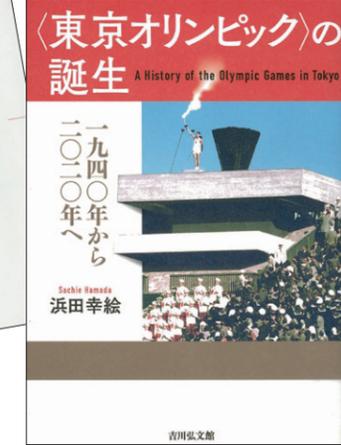
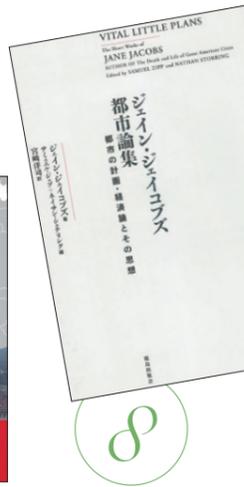
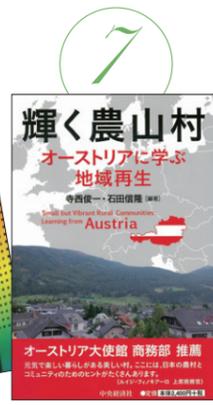
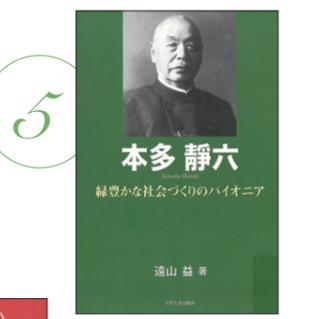
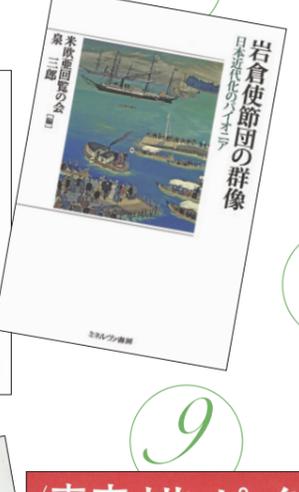
旅の図書館オススメの一冊！

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します！

1 実践 風景計画学



2 由布院 モデル



1 実践 風景計画学 —読み取り・目標像・実施管理—

造園学会風景計画研究推進委員会 監修 古谷勝則・伊藤弘・高山範理・水内佑輔 編 朝倉書店 2019年3月 B5判 164頁

観光と深いかわりのある「風景」。造園学分野の第一人者をはじめ多彩な執筆陣による風景計画論であり、造園学からの観光や国立公園等についても扱う。風景計画に関する教科書ともいえる一冊。

2 由布院モデル 地域特性を活かしたイノベーションによる観光戦略

大澤健・米田誠司 著 学芸出版社 2019年2月 A5判 208頁

「観光まちづくり」の先駆者・由布院は、なぜ観光地として高い競争力・ブランド力を維持し続けられるのか。持続的イノベーションにつなげる「由布院モデル」を深掘りする。※由布院温泉は当財団を事務局とする「温泉まちづくり研究会」会員として、温泉地の課題解決や活性化のための活動に協働で取り組んでいます

3 岩倉使節団の群像：日本近代化のバイオニア

米欧亜回覧の会・泉三郎 編 ミネルヴァ書房 2019年1月 A5判 386頁 420頁?

明治初期、「この国のかたち」を求めて米欧諸国に派遣された岩倉使節団は、アメリカやヨーロッパの何を見、何を持ち帰ったのか。米欧亜回覧の会設立20周年記念出版。

4 琉球列島の里山誌：おじいとおばあ昔語り

盛口満 著 東京大学出版会 2019年1月 A5判 264頁

琉球列島の島々には、生物多様性と調適するかのよう存在している。島々の多様な里山と人々の姿を、10年に及ぶ聞き取りから鮮やかに復元した貴重な記録。沖縄の風土への理解が深まる。

5 本多静六 —緑豊かな社会づくりのバイオニア—

遠山益 著 さきたま出版会 2018年12月 A5判 94頁

日本初の林学博士であり、近代洋風公園の先駆け・日比谷公園をはじめ全国各地の公園設計を手がけた「公園の父」。造林・造園・都市計画などに卓越した社会貢献を実行した本多静六の人生観・社会観を交えた伝記。

6 DMO入門 官民連携のイノベーション

大社充 著 事業構想大学院大学 編 宣伝会議 2018年12月 A5判 172頁

観光立国を目指す我が国において、地域自らその価値を高め、世界を相手に観光集客を回り、持続可能な地域づくりに不可欠な組織DMO。DMOの概念や具体的な取り組み事例を通して、日本版DMOの方向性を解説。

7 輝く農山村 —オーストリアに学ぶ地域再生—

寺西俊一・石田信隆 著 中央経済社 2018年12月 A5判 216頁

急峻な山岳地帯、小規模で兼業が多い農業、多数の小村からなり日本に似た立地にありながら、元気で美しいオーストリアの農山村。日本の農村とコミュニティのこれからの多くのヒントを与えてくれる。

8 ジェイン・ジェイコブズ都市論集

都市の計画・経済論とその思想

ジェイン・ジェイコブズ 著 鹿島出版会 2018年12月 A5判 472頁

誰よりも都市の見方を変えることに大きな影響を与えたジェイン・ジェイコブズ。名著「アメリカ大都市の生と死」をはじめ、彼女の都市の計画・経済、その思想を辿ることができる。

9 〈東京オリンピック〉の誕生：一九四〇年から二〇二〇年へ

浜田幸絵 著 吉川弘文館 2018年10月 A5判 298頁

1940年幻の開催から、1964年東京オリンピック正式開催へ。日本のオリンピック参加の歴史やオリンピック招致・選定の経緯などをメディア史から描く。

10 都市計画の思想と場所：日本近現代都市計画史ノート

中島直人 著 東京大学出版会 2018年8月 A5判 396頁

都市計画法ができてもうすぐ100年になる。この100年間に「都市計画」がどのように都市の中に、社会の中に存在してきたのか。省みて、私たちの都市計画は「都市計画」の名に値するものであったかどうか。(序文より)